



頼れる福祉の充実

長田 忠広



問 私は議員活動の中で、福祉前進都市「岩沼」を目指して、井口市長、菊地市長と議論も重ねてきた。本日は佐藤市長の公約から、議論をしたいと思う。「長生きが当たり前前の時代、独居や介護の不安をサポートします」について、岩沼市の課題をどのように捉えているか伺う。

市長 高齢者は、日常生活の中で病気や介護が必要な状態になることなどに不安を感じています。また、地域においては住民同士の関わりが希薄となっており、コロナ禍もあり、交流機会が減少していることなどから、高齢者の社会的な孤立も心配であると捉えています。

サポートの新たな施策は

問 岩沼市はこれまでもさまざまなサポート体制を取ってきた。さらに、どのようなサポートが必要だと思いか伺う。

市長 今まで行ってきた施策は維持して伸ばします。さらに、地域共生社会の理念に基づき、高齢者

のみならず多世代、多様な担い手による住民同士の互助を基本とした支え合いの地域づくりをより一層充実させたいと考えます。

問 「認知症など病気の予防、早期発見で寝たきりを防ぎ、健康寿命を延ばします」について、どのような施策を考えているか伺う。

市長 地域包括ケアシステムの深化、推進に引き続き取り組んでいきます。また、次期第9期計画の策定に向けて、高齢者の生活状況等をしっかりと把握し、より効果的な施策を検討していきたいと思っています。

問 「障害者・生活困窮者支援を充実します」について、さらに充実すべき施策をどのように考えているか伺う。

市長 障害者の支援は、各種施策をより一層推進し、充実を図っていきたいと思います。また、生活困窮者への支援は就労への支援など、伴走型支援の充実などを図っていきたくと考えます。

◎その他の一般質問
・4病院の再編



市長の政治姿勢

渡辺ふさ子



問 市長は「シルバー世代の生活課題の解決を支援します」と公約した。難聴により脳に入ってくる情報が少なくなることが脳の機能低下につながり、うつ病や認知症につながる指摘されている。軽度・中度の加齢性難聴者への支援について認識を伺う。

市長 国の新オレンジプランでは高血圧、糖尿病などとともに、難聴が認知症の危険因子とされており、精神的健康や認知機能の低下をもたらすこともあるとされていることは認識をしています。

問 軽度・中度の加齢性難聴者への補聴器購入支援は多くの高齢者が聞こえづらさから解放され、健康で自分らしく生きるために必要不可欠な施策と考えるがどうか。

健康福祉部長 加齢性難聴に起因する生活上の相談は特に寄せられなくなり、現時点では必要不可欠な施策とは考えていません。

補聴器購入助成をしては

問 補聴器の利用を通じて、高齢者の難聴者の外出や地域交流を支援

し、閉じこもりの防止や高齢者の福祉の増進に資するため、補聴器購入助成を行ってはどうか。

健康福祉部長 現在のところ購入に対する費用助成は考えていません。今年度、認知症初期集中支援チームに専門職として言語聴覚士が加わりましたので、協力も得て加齢性難聴の方の支援について研究していきたいと考えています。

問 食材費の高騰が続いている。子どもたちの栄養を確保しつつ、給食費の値上げにならないよう手当してはどうか。

教育次長 最近の食材費の値上がりは約37円台の上昇幅でした。若干ですがプラスした形で、1人1食当たり40円の補正予算を今回、お願いしています。

問 市長選の前に女性団体から質問状が出され、「カジノを含むRの導入について」は「必要ない」と回答している。市長になった今も考えは変わらないか伺う。

市長 「必要ない」という考えに変わりはありません。